

ホロベツ園地再整備事業について

斜里町

1. 背景・課題

- ・ホロベツ地区は知床国立公園のウトロ側の玄関口にあたり、国立公園計画において一帯はホロベツ園地に指定されている。フレペの滝展望台周辺（東屋、木柵等）は北海道によって昭和62年に整備され、現在は斜里町が管理を行っている。
- ・年間約4～5万人に利用されているフレペの滝展望台付近は老朽化が進み、利用面での安全性が懸念されており、案内看板の板面が風化しているなど、施設全般の更新が必要な状況である。
- ・現在の公園全体の利用者は知床五湖に一極集中しており、利用分散を進める上での受け皿として十分なサービスの提供ができていない状況にある。

2. ホロベツ地区の現況について

- ・平成27年～28年 知床自然センターリニューアル工事（第1期）
- ・平成29年 // （第2期）
- ・平成30年 映像更新事業開始、知床アウトドアフィルムフェス第1回／外構設計
- ・令和元年 外構工事（第1期）、テナント更新／ホロベツ園地基本構想検討着手
- ・令和2年 外構工事（第2期）、新映像完成／斜里町ランドデザイン策定
- ・令和4年 ホロベツ園地基本計画策定（遊歩道ルートイメージ図、展望施設）

3. ホロベツ園地再生の基本方針

知床国立公園ホロベツ地区の魅力アップと適正利用を図るため、ホロベツ地区の潜在的要素を活かし、公園利用のコンテンツやバリエーションを充実させる。

また、展望台は知床森林生態系保護地域の保全利用地区内に位置するものとし、樹木位置の回避を第一とした上で、樹木の伐木については今後の協議とする。

- (1) 多様な利用者やニーズを受け入れる景観・探勝型の園地
- (2) リスクを伝え、配慮し、理解される園地。ヒグマに強い遊歩道
- (3) 象徴性のある展望台を中心としたモデル的な園地整備
- (4) 体験のバリエーションを提供するメリハリのある整備

4. 整備内容

- ・既存のフレペの滝展望台を立て替え、広場を付帯する
- ・ホロベツ園地における柵・手すりの設置
- ・新規遊歩道及びこれに付帯する設備（サイン）の設置

5. 今後のスケジュール（案）

- ・令和6年2月 実施設計業務完了
- ・令和6年～7年度 展望台、遊歩道整備、サイン（看板）整備

ホロベツ園地の範囲

20231





現在のフレペの滝展望台